



有形文化財（絵画）

5. 絹本着色前田利家画像 けんぽんちやくしよくまえだとしいえがぞう 1幅 ぶく

■指定年月日 昭和42年5月22日（1967）

■寸法 縦104.2cm 横55.7cm

■所在地 野々江町ヲ43

■所有者 みょうしゅじ 妙珠寺

すいはいかん 垂纓冠をかぶり、あげたたみ 上畳に坐るこの利家画像は、鏡の御影とも呼ばれている肖像である。

画面の上部には、南無妙法蓮華經の題目を、左右には諸法従本来・常自寂滅相と記されている。捲上げられた御簾と幕、そして背景の山水など、この図柄は尾山神社（金沢市）所蔵のものと非常に似ているとされている。また、これと類似する画像には蓮江寺（輪島市）所蔵、燈明寺（金沢市）所蔵のものが知られている。

軸の裏側には、次のようにその来歴が墨書してある。

高德院殿贈準一位前垂相桃雲浄見大居士神儀奉図為御報恩謝徳者也。慶長第四ご閏三月三日、

施主大井久兵衛尉直泰敬白

この画像を妙珠寺へ納めた大井久兵衛とは、天正から慶長にかけて所口（現在の七尾）町奉行の職にあって、能登各地の代官を統轄・支配していた人である。慶長4年（1599）閏3月3日は、前田利家が62歳で亡くなった日であり、久兵衛は主君への報恩謝徳の思いをこめてこの肖像を求め、後年、妙珠寺へ寄進して、藩祖の冥福を祈願したものであろう。